さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

問1
県内の公立小中学校では、性別で分けない名簿を採用する学校が、増えています。
採用している小学校の割合は、何%でしたか。

小学校:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿%

問2
調査は、5項目について行われましたその項目を答えてください。

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

・＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問3
あなたは、ジェンダーの問題についてどのように考えますか。

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

論説

■性別で分けない名簿

ジェンダー平等 学童期から

児童生徒の名前を性別で分けず、五十音順などで並べる名簿を採用する学校が増えている。山梨県内では昨年度、全ての公立小学校が、性別で分けない名簿を採用したことが県教職員組合（山教組）の調査で明らかになった。

学校の名簿と言えば、かつては男女別が当たり前で、そのほとんどが「男子が先で女子が後」だった。性別で順番を決めることは、「男が主で女が従」という昔ながらの関係性、固定的な性別役割分担意識を学童期からすり込むことにつながる。日本教職員組合（日教組）女性部などが長年改善を求めており、県内も小学校を中心に浸透してきたと言える。

日々学校で使われ、子どもの目に触れる機会も多い名簿はジェンダー平等教育の基本とも言えるだろう。名簿に限らず、集会での整列、靴箱の配置などを性別で分けることも同様で、ジェンダー規範について知らず知らずのうちに教育する「隠れたカリキュラム」とも指摘される。必要のないところで男女を分けていないか、名簿を入り口に、学校現場のあらゆる場面を見直すことにつなげてほしい。

近年は性自認に悩む子どもへの配慮も求められるだけに、性別による不必要な区別をなくし、苦しみをより深めない配慮が必要だ。誰もが安心して学校生活を送れる環境を整えることを考えたい。

山教組の調査は、「児童・生徒名簿（教室で使用）」「全校集会等の整列」「靴箱・ロッカー等」「入学式の整列・呼名」「出席簿（公簿）」の5項目について、性別で分けていないか尋ねた。小学校は県内の全公立小166校が、5項目全て性別で分けていなかった。代わりに五十音順などを取り入れていた。

一方、中学校は全5項目で50%に届かなかった。山教組は現在、本年度の状況を調査中で、「中学校も昨年度より取り組みは進んでいる」という。

性別で分けない名簿については、日教組が約30年前から、教育現場の男女平等を進めるため採用を呼び掛けている。全国の小中学校では、1993年度の11・5%から、2020年度は87・1%まで広がっている。

中学で進まない背景には「作り直すのが手間」「先生が忙しい」などの声が聞かれる。山教組女性部長の小林恵さんは「子どもにどんな影響があるか、子どもの目線に立って考える必要がある」と話す。山教組は本年度、体育着や制服などについても男女の違いなどの状況を調べている。大人の便利さを優先していないか、潜在的な男女不平等はないか、あらゆる場面で見直すきっかけとしてほしい。

ただ気を付けなければならないのは、全ての場面で性差をなくせばいいわけではないということだ。国立女性教育会館理事長でジェンダー問題など環境社会学が専門の萩原なつ子さん（笛吹市出身）は、「男女の生物学的な違いと、社会的・文化的性差であるジェンダーの問題は分けて考える必要がある」と指摘する。着替えやトイレ、身体測定など男女で分けるべき場面での対応は当然必要だ。多目的トイレの用意など性的少数者への配慮も同様だろう。

何でも一緒にすればいいのではなく、「状況に応じて判断する力が求められる」（萩原さん）ということだ。でなければ、賃金差など男女で分けて調べなければ格差が分からないものまで覆い隠されてしまうことになるだろう。

〈五味優子〉

（2022年9月16日付 山梨日日新聞 3面）

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2022 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.